

# 発達障害者の運転免許取得における ソフトスキル面に対するアセスメント開発の試み

○高橋 幾 (早稲田大学大学院 教育学研究科 博士後期課程 2年)  
梅永 雄二 (早稲田大学 教育・総合科学学術院)

## 1 問題と目的

自閉スペクトラム症者(以下「ASD者」という。)は、就労においてソーシャルスキル、コミュニケーション、感覚的な問題の影響が指摘されており(Hurlbutt & Lynne Chalmers, 2004)、また「求人応募のプロセス」「新しい仕事への適応」「コミュニケーション」「同僚上司との関わり方」など、仕事そのもののスキル以外の課題を抱えることが指摘されている(Muller et al., 2003)。これらのスキルは、職業リハビリテーションの専門用語では「ソフトスキル」と呼ばれている領域である。

発達障害者の運転免許の取得においても、教習所での技能や学科といった教習そのものへの対応に加えて、ソフトスキルの問題がある(梅永, 2017)。Tyler (2013)は、アスペルガー症候群の人たちの社会性の障害が、指導員へ誤解を生み、コミュニケーション不足につながる可能性を明らかにしている。高橋(2019)は、ASD者の就労場面におけるソフトスキルのアセスメントにおいて有効とされるTTAPを参考にして、発達障害者の運転免許取得支援を行っているK自動車教習所の職員へ聞き取り調査を行った。その結果、運転免許取得において支援が求められるソフトスキルは、就労場面で問題となるスキルと重なっていることを報告し、また、教習所でしか発生しないような場面でのソフトスキルについて検討していく必要性を述べている。

本研究では、高橋(2019)で示された発達障害者の運転免許取得において支援がもとめられるソフトスキルについて整理を行い、実際に運転免許取得をめざす障害のある学生に対するアセスメント(TTAPを教習所版にアレンジしたKDTAP)として運用することで、以下の2点を明らかにすることを目的とする。①教習所での実態に合わせた支援によるソフトスキルの向上。②発達障害傾向のある学生の実態に合わせた、ソフトスキルへのアセスメントの必要性。

## 2 方法

### (1) 期間

20XX年1月から20XX年3月

### (2) 対象者情報

名前: ケンジ(仮名)、性別: 男性、年齢: 18歳、診断: 軽度知的障害。

特別支援学校卒業後は食料品販売店での就労が決まっている。コミュニケーションの困難さや、指示を字義通り受け取るなどASD傾向がみられた。教習所では自習するこ

とができないため、テストの得点向上が課題となっていた。具体的には課題を複数ページ指示しても表のページのみ実施して待っている、複雑な表現の理解が苦手、答え合わせができないなどであった。4月から仕事が始まるため、焦りが見られていた。

### (3) 場所 (K自動車教習所)

K自動車教習所では、発達障害者の自動車免許取得に対する支援プランを行っている。学習や日常生活などで特性に合わせた支援を行い、参加者277名のうち、254名(91%)が免許取得に至っている。参加者の平均IQは76.8で、診断は多い順にASD者が32%、知的障害者が29%、知的障害をとまなうASD者が11%であり、ASD者、知的障害者、知的障害を伴うASD者が全体の7割を占めている。

### (4) 測定用具「K自動車教習所移行アセスメント (K Driving School Transition Assessment Profile, 以下「KDTAP」という。)」

高橋(2019)は、職員への聞き取り内容をTTAPアセスメントのCRSの項目を参照にして分類整理した。TTAPとはASD者に特化した就労アセスメントとして米国ノースカロライナ州TEACCH Autism Program で開発された検査で、基本的には学校から成人生活への移行(ITP)のためのアセスメントであり、日本では、移行支援事業所や継続支援事業所B型などから就労現場へ移行する際の指導指針を得るためにも使用できる(梅永, 2016)。

TTAPを参考に抽出された、「運転行動」「機能的コミュニケーション」「自立機能」「対人関係」「環境・感覚要因」「感情特性」の6領域の項目について、担当職員への聞き取り調査を行った。TTAPと同様に各質問項目に対して自立している場合は「合格・P」、支援があれば自立してできる場合は「芽生え・E」、常に支援や配慮が必要である場合は「不合格・F」の3段階で評価することとした。回答の中で、結果が重複する内容を整理したところ、6領域42項目に整理された。

### (5) 手続き

ケンジの教習生活におけるソフトスキル面での変化を測るために、事前(2月)と事後(3月)でKDTAPによる調査を行った。ケンジの担当職員に回答を依頼し、得られた回答に対して、第1著者が再度聞き取りで確認を行った。

### (6) 具体的な支援の概要

事前のKDTAPより、コミュニケーションや対人関係に苦手さが予測され、その影響からケンジの困っていること

について、細かく情報を引き出せていないことが確認された。そこで、コミュニケーションに配慮するため、自習での困り感について情報を視覚的に整理しながら聞き取りを行った。その結果「(自習では) どこをやればいいのかわからなくなるので教えてほしい」、「わからない問題があると不安になるのが、教えてもらいながらであればできる」という要望が聞き取れた。要望に合わせて、自習内容については具体的にページや内容を指示し、自習時に担当職員がより細かく採点や説明を行うこととした。

### 3 結果

#### (1) KDTAPの結果

KDTAPの結果を表に示す。

表 KDTAPの結果①

	2月	機能的 コミュニケーション	自立機能	対人関係	環境・ 感覚要因	感情特性
合格	4	3	6	3	5	2
芽生え	3	1	0	2	2	5
不合格	0	3	1	2	0	0

	3月	機能的 コミュニケーション	自立機能	対人関係	環境・ 感覚要因	感情特性
合格	6	6	6	7	6	5
芽生え	1	1	1	0	1	2
不合格	0	0	0	0	0	0

2月の結果では、合格 (P) が23、芽生え (E) が13、不合格 (F) が6であった。運転中の行動面に対する「運転行動」や基本的な生活スキルである「自立機能」は合格 (P) が多く、一方で、「機能的コミュニケーション」や「対人関係」では芽生え (E) や不合格 (F) が目立つ結果となった。また「自立機能」での不合格 (F) は「自習ができる (適切な学習内容を選べる)」であった。

免許取得後 (3月) では、合格 (P) が36、芽生え (E) が6、不合格 (F) が0となり、K自動車教習所内における活動に適応している可能性が示されている。課題であった自習は、「不合格 (F) から支援があれば自立できる芽生え (E) に変化している。特に変化が見られた、「機能的コミュニケーション」と「対人関係」の結果を図に示す。

#### (2) 学習への取り組み・免許取得

対人関係・コミュニケーションの課題に配慮した支援を行ったことで、学習活動に従事することができ、教習所および本試験での試験を合格し、運転免許を取得することが出来た。本試験での学科試験は1度の試験で合格した。

### 4 考察

KDTAPの結果から、運転免許取得という活動が、障害のある学生のソフトスキル面の向上に寄与している可能性が示されている。免許取得という明確な目標に対して、変

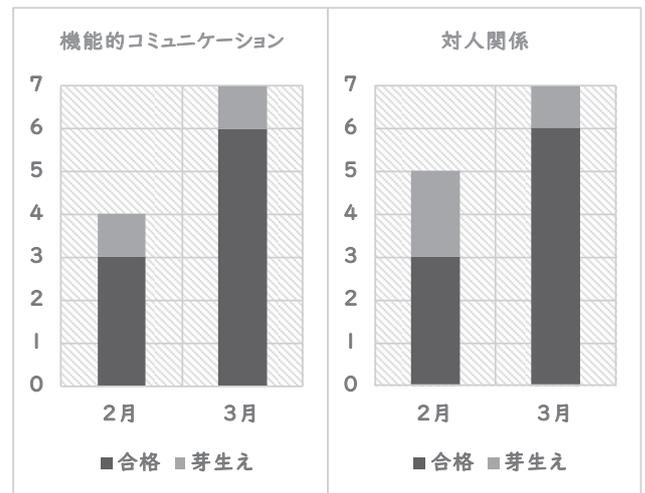


図 KDTAPの結果②

化の少ない環境の中で、具体的な場面を通して練習していくことで向上したと考える。ソフトスキル面での課題は、就労にも共通するものであり、教習のような意欲を維持できる目標設定のもとで、環境面に配慮した支援を行うことが重要である。学習面での課題については、KDTAPアセスメントを行い、ケンジのソフトスキル面の課題を領域ごとに把握し、対応できたことで成果につながった。教習におけるASD者のコミュニケーションの困難は指摘されており (Tyler, 2013)、本事例においても、問題の要因になっていたと考えられる。視覚的なコミュニケーションを用いて、ケンジの要望を引き出すことが、学習や教習生活における支援につながったと考えられる。

#### 【倫理配慮】

本研究は、個人情報及び倫理面に配慮し行った。本人と保護者には、研究・発表について書面による合意を得ている。また、K自動車教習所の代表取締役から許可を得て実施している。

#### 【引用文献】

- 1) Chapman, M., Thomas, J. B., Mesibov, G., Schopler, E. (2007): TTAP: TEACCH Transition Assessment Profile (2nd ed.). Austin, TX: Pro-ed.
- 2) Hurlbutt, K., & Chalmers, L. (2004). Employment and Adults With Asperger Syndrome. Focus on Autism and Other Developmental Disabilities, 19(4),
- 3) Muller, E., Schuller, A. Burton, B.A., and Yates, G.B. (2003). Meeting the vocational support needs of individuals with Asperger Syndrome and other autism spectrum disabilities, Journal of Vocational Rehabilitation, 18, 163-175
- 4) Tyler, S. (2013). Asperger's Syndrome: The implications for driver training methods and road safety. 24, 9.
- 5) 高橋 幾・梅永 雄二 (2019). 発達障害者の運転免許取得におけるソフトスキルへの支援について LD学会第28回大会論文集.
- 6) 梅永 雄二監修 著 (2016). 「よくわかる! 自閉症スペクトラムのための環境づくり 事例から学ぶ『構造化』ガイドブック」株式会社学研プラス
- 7) 梅永 雄二 (2017). 発達障害者の教習支援マニュアル 一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会.